

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
大阪動物専門学校	平成18年6月15日	武田 知也	〒553-0003 大阪府大阪市福島区福島6丁目12番7号 (電話) 06-6454-1011																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人立志舎	平成10年10月30日	塚原 一功	〒130-8565 東京都墨田区錦糸1-2-1 (電話) 03-3624-5403																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	動物管理専門課程	動物管理学科	平成21年 文部科学省告示第30号	-																							
学科の目的	教育基本法及び学校教育法に基づき、動物に関する専門知識、職業遂行に必要な知識及び人間と動物が共生できる確かな技術を授け、併せて豊かな人間性を養い、社会に貢献しうる有能な人材を育成することを目的とする。																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1,720	1,500	900	1,665	-	-																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
280人	274人	0人	7人	7人	14人																						
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績は秀・優・良・可・不可に分け、秀・優・良・可を合格とし、不可を不合格とする。成績評価は期末試験、授業期間中に実施するテスト・実習の成果・履修状況等を総合して判断する。																							
長期休み	■学年始: 4月1日 ■夏季: 7月16日～8月31日 ■冬季: 12月16日～1月7日 ■学年末: 3月16日～3月31日		卒業・進級条件	成績評価において合格した科目の授業時間数の合計が規定の授業時間数に達すること。なお、教育課程に定められた必修科目についてはすべて取得することを要する。																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話での対応および保護者との面談。保護者等との綿密な連絡体制を図る。学生相談室の設置。		課外活動	■課外活動の種類 イギリスペット研修、球技大会、総合体育祭、硬式野球選手権大会、就職セミナー、合格祝賀会、就職出陣式等 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等																							
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) イオンペット・阪急ハロードッグ・空港ドッグセンター・ひごペットフレンドリー・アミーゴ・AHB・オフィスピースワン・ワンラブ・犬の家・丸エス・戸田動物病院・ロッキー動物病院・大阪動物医療センター・宇治中央どうぶつクリニック・岡山動物医療センター・ふじもり動物病院・新大阪警察訓練所・おはな警察犬訓練所・Training Hatchi・BIGDOG・ピースワンコジャパン・くら寿司・平山ホールディングス・シモジマなど ■就職指導内容 ・業界研究・業種研究・自己分析・面接指導・新入生就職セミナー・進路決定のための就職・公務員ガイダンス・就職模試・学内就職セミナー・就職出陣式・企業内インターンシップ ■卒業生数 124 人 ■就職希望者数 120 人 ■就職者数 120 人 ■就職率 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 96.74 % ■その他 ・進学者数: 1人 ・一時的な仕事に就いた者: 3名 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士2級</td> <td>③</td> <td>129人</td> <td>98人</td> </tr> <tr> <td>家庭動物管理士3級</td> <td>③</td> <td>131人</td> <td>124人</td> </tr> <tr> <td>動物看護師統一認定試験</td> <td>③</td> <td>28人</td> <td>27人</td> </tr> <tr> <td>ドッグアドバイザー</td> <td>③</td> <td>40人</td> <td>31人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	愛玩動物飼養管理士2級	③	129人	98人	家庭動物管理士3級	③	131人	124人	動物看護師統一認定試験	③	28人	27人	ドッグアドバイザー	③	40人	31人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
愛玩動物飼養管理士2級	③	129人	98人																								
家庭動物管理士3級	③	131人	124人																								
動物看護師統一認定試験	③	28人	27人																								
ドッグアドバイザー	③	40人	31人																								
中途退学の現状	■中途退学者 13名 令和3年4月1日時点において、在学者256名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者243名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、経済的理由のため ■中退防止・中退者支援のための取組 学生相談室・就職相談室の設置、郵送による保護者あて出席状況報告、学期末における保護者あて出席状況のお知らせ、担任の個別面談等		■中退率 5%																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 <学校独自の奨学金> ・特別奨学生試験制度 <学校独自の特待生制度> ・資格や経歴による特待生制度 ・スポーツ特待生制度 <授業料等減免制度> ・大規模災害(東日本大震災等)による学費減免制度 <その他の学費支援制度> ・学費延納制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	URL: https://www.osaka-doubutsu.ac.jp																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください。

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱ふ)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

動物系企業・一般企業・動物業界団体等との連携により、動物に関する専門知識、職務等の遂行に必要となる最新の知識・技術・技能を修得し、人間と動物が共生できる確かな技術を授けるため、動物系企業・一般企業・動物業界団体等からの意見を十分にいかし、カリキュラムおよび授業運営に関する改善等の教育課程の編成を定期的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

1. 教育課程編成委員会を「IT」「会計」「法律」「ビジネス」「動物」それぞれの分野について各校ごとに組織する。教育課程編成委員会は、有識者および学園職員で構成する。
2. カリキュラム作成委員会を「IT」「会計」「法律」「ビジネス」「動物」それぞれの分野ごとに設置する。カリキュラム作成委員会は関連する学校、関連する学科ごとの責任者全員で構成する。
3. カリキュラム作成委員会において教育課程を作成する。
4. カリキュラム作成委員会において作成した教育課程を教育課程編成委員会全体会および各学校・各学科ごとの分科会において検討を行う。
5. 教育課程編成委員会は、カリキュラム改善への意見をカリキュラム作成委員会に提言する。
6. カリキュラム作成委員会は、その意見を組織としてカリキュラムの改善を検討吟味し決定する。
7. カリキュラム作成委員会は、教育課程編成委員会の意見を十分に生かし、カリキュラム改善等の教育課程の作成を定期的に行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月31日現在

名前	所属	任期	種別
山藤 栄一 氏	特定非営利活動法人 犬の総合教育社会化推進機構 理事長	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	①
田川 直樹 氏	(株)ひごペットフレンドリー 取締役 人事部長	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	③
西堀 あずさ 氏	Door to Door 苦楽園店 店長兼トリマー	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	③
水間 智美 氏	あや動物病院 動物看護師 チーフ	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	③
武田 知也	大阪動物専門学校 校長	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	
山下 浩	大阪動物専門学校 動物管理学科 教務部課長	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	
久保 文武	大阪動物専門学校 動物管理学科 教務部課長	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、1月)

(開催日時(実績))

第17回 令和3年 9月29日 16:00～17:00

第18回 令和4年 1月25日 16:00～17:00

第19回 令和4年 9月21日 16:00～17:00(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会等の意見については、カリキュラム作成委員会で、その意見に対する実現を検討し、カリキュラム編成を工夫し実現を図っている。

1.意見:グルーミング実習では、時間を意識した実習の取り組みを行うとあるが、時間の設定は学生自身が決めるのか、講師が設定するのか。また、目標が達成できなかった学生には講師がアドバイスを行う必要がある。

対応科目:グルーミング実習Ⅱ/グルーミング実習Ⅳ

活用状況:グルーミングレポートの時間把握の項目欄に「未達成のみ✓」を設け、「✓」がある項目について講師から学生に対しアドバイスを行的してもらった。

2.意見:ドッグトレーナー講師は状況や改善したい内容についてヒアリングを行った上で、自主性を引き出すアドバイスを行うべきである。また、消極的な学生や担当犬グループには、積極的に授業に参加するようにアドバイスを行う必要がある。

対応科目:犬の行動心理学Ⅱ

活用状況:担当犬決定までの期間の実習の在り方、ドッグトレーナーコース以外のドッグトレーニング実習について、担当する犬のローテーションルールを決めた。決定後は小テストの日程と項目を決め、講師と担任で指導方法の協議を行なった。

3.意見:店舗では、お客様に対してスタッフはマスクとフェイスシールドを着用した状態で接客を行なっている。注意すべき事は、目元の笑顔と、通常時より2倍の大きさの声を出すよう心掛ける必要があること。

対応科目:インターンシップ/動物看護総合実習Ⅰ

活用状況:ホームルームにおいて、マスクを着用した状態で2倍の声の大きさによる挨拶練習を行っている。それ以外にも実習中において、パートナーと会話する際には、歯切れよく、耳元に口を寄せて会話するなど、マスクを着用した状態であっても声の聞き漏れのない工夫を実践した指導を行った。

4.意見:猫に対する実習は、可能な範囲で回数を増やすのが望ましい。

対応科目:ペットシットイングⅠ/ペットシットイングⅢ

活用状況:学校での実習以外に、猫のブリーダー様にて実習を行った。子猫や親猫の給餌やお手入れ、掃除などを通じ猫の生態について学んだ。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学外の企業や組織と連携した活動を行うことで、実務者の指導の下、動物業界人としての意識を持たせる。また、業界の動向、最新の技術、知識を修得させるために、職業教育を通じ、自立した職業人を育成し社会や職業へ円滑に移行させること。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

動物業界の中にあつて、特定の分野に偏ることなく、最新の業界全体の動向を把握しうる業界団体または企業を選定し、教務部が連携して、授業内容や方法及び評価について、十分に協議し、職場に必要な実践的かつ専門的能力を育成するため実習・演習を行う。また、レポート及び演習結果により企業等と連携し学習成果の評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ビジネスマナー	最新『動物業界の現状と今後の動向について学ぶ』	株式会社 エデュワードプレス
グルーミング論Ⅰ	グルーミング実習を行うにあたり使用する用具・用品の適切な使用方法・手入れの方法や生体管理の基礎について講義を行う。	有限会社ペッツPD
グルーミング実習Ⅰ	グルーミングの基礎知識として、犬の骨格・犬体名称・体温測定・耳及び爪の構造並びに手入れの方法や犬用シャンプー及びリンスの種類と効用などを講義及び実習にて学ぶ。	株式会社KSペット
犬の行動心理学Ⅰ	犬の生態や習慣、行動特徴をよく理解することで「しつけ」が犬との生活で欠かせないものであることを理解する。	ドッグアカデミーやまだ
インターンシップ	実習・演習は、飼育・販売・接客・サービス等実体験に沿った内容とすることにより、職業を強く意識し、動物を扱う職業人として社会への参画を意識付けていく。	AEONPET、ひごペットフレンドリー、ペットプラザ、空港ドッグセンター、Coo&RIKU、アミーゴ、ZOO JAPAN、犬のほいくえん、Pee-Ka-Boo、HEY!DOGS!!、DOG TRAINING Feel Fun、新大阪警察犬訓練所、Dog Training GINGA、ペットランドピースワン、HOGOKEN PARK、公益財団法人日本アニマルトラスト、京都わんこのお宿 薫風舎、大阪動物病院、大阪動物医療センター、ひだまり動物病院、ひまわり動物病院、男山動物病院、北須磨動物病院、兵庫ペット医療センターなど

<p>3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係</p> <p>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 教職員研修規程に従い職員は、最新の動物に関する専門知識・技術の向上を図る必要がある。そして修得した技術と知識を、学生に提供するため研修を行う。なお、授業及び学生に対する指導力等の向上のための研修等も定期的に行っていく。</p>
<p>(2) 研修等の実績</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名 テレワークを実施したい企業様に向けたMicrosoft Teamsのご紹介 期間:2021年6月1日(火) 対象:大阪動物専門学校に所属する常勤職員 内容:Microsoft office365でチームワークを実現するために、Microsoft Teamsはテレビ会議、チャット、ファイル共有などが一つになったツールであり、人と仕事の効率的につながると紹介があった。</p> <p>研修名 循環器webセミナー 診察ですぐに役立つ犬と猫の心電図 期間:2021年10月11日(月) 対象:大阪動物専門学校に所属する常勤職員 内容:福島 隆治氏(東京農工大学)による、循環器診療にとっては欠かせない検査の心電図に関する内容について受講し、動物看護師の知識を向上させた。</p> <p>研修名 「愛玩動物看護師」国家試験に向けて 期間:2021年11月10日(水) 対象:大阪動物専門学校に所属する常勤職員 内容:今後の愛玩動物看護師(国家試験の受験資格、国が定めた講習会、予備試験、国家試験)の流れについて講演会を聴いた。</p>
<p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名 愛玩動物看護師のカリキュラム科目の「愛護・適正飼育学」について 期間:2021年8月10日(火) 対象:大阪動物専門学校に所属する常勤職員 内容:日本愛玩動物協会による愛玩動物看護師試験(国家試験)の試験科目である「愛護・適正飼養学」の概要と授業実施に当たっての説明があった。</p> <p>研修名 人権問題研修「SNSを含めたコミュニケーションについて考える」 期間:2021年12月21日(火) 対象:大阪動物専門学校に所属する常勤職員 内容:梶山 武志氏(大阪府人権擁護士)を招いて、SNSを含めたネットを活用した生徒・学生間のコミュニケーションによって発生しているトラブルについて、課題解決に向けてどのように取り組めばよいかを事例を参考にして参加型研修で考えた。</p>
<p>(3) 研修等の計画</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名 JAHAどうぶつフェスタ 期間:2022年9月10日(土)予定 内容:専攻分野の知識向上</p>
<p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名:人権研修 期間:令和4年12月 内容:指導力向上</p>

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校運営に関し、自己点検・自己評価委員会でまとめた評価及び改善計画が適切であるか検証するため学校関係者評価委員会を設置する。学校関係者評価委員会は原則として年1回開催する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	イ. 理念、目的、育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか） ロ. 学校における職業教育の特色は何か ハ. 理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者等に周知されているか ニ. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	イ. 目的等に沿った運営方針が策定されているか ロ. 運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか人事、給与に関する制度は整備されているか ハ. 教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ニ. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ホ. 教育活動に関する情報公開が適切になされているか ヘ. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	イ. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ロ. 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ハ. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ニ. キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ホ. 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ヘ. 授業評価の実施・評価体制はあるか ト. 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか チ. 資格取得の指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか リ. 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ヌ. 職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	イ. 就職率の向上が図られているか ロ. 資格取得率の向上が図られているか ハ. 退学率の低減が図られているか
(5) 学生支援	イ. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか ロ. 学生相談に関する体制は整備されているか ハ. 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ニ. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか ホ. 課外活動に対する支援体制は整備されているか ヘ. 学生の生活環境への支援は行われているか ト. 保護者と適切に連携しているか チ. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	イ. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ロ. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ハ. 防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	イ. 学生募集活動は、適正に行われているか ロ. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ハ. 学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	イ. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ロ. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ハ. 財務について会計監査が適正に行われているか ニ. 財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	イ. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ロ. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ハ. 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ニ. 自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	イ. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ロ. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ハ. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	評価していない。

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

活用状況について、評価委員より以下の内容についてご意見を頂き、次年度以降の検討課題としていく。

- ・実習生を受け入れているが、他校と比較してもコースごとの目的や目標が明確である。他校では、学習内容が幅広くてコースの目的がぼやけている学校もある。
- ・現場のプロが授業、実習を行っている環境は良いと思う。実習生に授業や実習のことを聞いた際にも、私自身が学生の頃と比べると変化していると感じていた。職員の先生方が、学生指導面で講師のフォローをすることも大切だと思う。
- ・実習機材も充実し、実習も増えているのは良い。実習生を見て感じるのは、実習に積極的に参加できる学生と消極的な学生で差を感じる。皆が均等に実習経験を積めるよう配慮していく必要がある。
- ・私自身が学生の頃は、資格取得の大切さをしっかりと認識できておらず、開業するにあたり資格の重要性を認識した。合格率100%を目指す上でも、資格取得の重要性を学生に認識させていく必要があると感じる。
- ・インターンシップにおいて学生によって温度差があると感じることがある。学生との面談等を通じて、場合によっては動物分野以外の就職を勧めても良いと思う。就職率が下がったとしても、就職満足率の向上が図れれば、学校の評価は下がらないと思う。
- ・動物病院での実習においては、見学の時間が長くなる傾向にあるが、中でも「何をしたら良いですか」が言える学生がいるのは良い。学生時代は挨拶や掃除について繰り返し指導を徹底された記憶がある。受入れ側、指導する立場となり積極的に挨拶と掃除ができる実習生は、高く評価されることがわかった。今後もそれらの指導を継続してもらいたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年5月17日現在

名前	所属	任期	種別
高橋 大二郎 氏	大東電機工業株式会社 営業部 次長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	業界関係者
畑中 学 氏	株式会社ヘイドッグズ 代表取締役	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	業界関係者
大引 健 氏	株式会社ケイディーシー トリミング課 課長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	業界関係者
道満 直樹 氏	有限会社ベッツピー・ディー 代表取締役	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	業界関係者
大西 佑来 氏	株式会社UG Dogs Come home 店長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	卒業生
大西 里奈 氏	Natural Pet Space majun	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	卒業生
礒山 倫花 氏	オアシス動物病院 看護師長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	卒業生
森本 茅紗記 氏	ル・レーヴ動物病院 看護師長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	卒業生
奥村 唯 氏	Dog salon Rapport オーナー	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL:https://www.osaka-doubutsu.ac.jp 公表時期: 令和4年6月24日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の関係者が本学全般について理解を深めるとともに、企業等の関係者との連携および協力の推進に資するため、本学の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の教育方針、特色(ホームページ) 校長名、所在地、連絡先(ホームページ) 学校の沿革、歴史(ホームページ)
(2) 各学科等の教育	設置学科、収容定員(ホームページ) 授業方法(ホームページ) カリキュラム(ホームページ) 目標取得資格、目標合格検定(ホームページ) 資格取得、検定試験合格等の実績(ホームページ) 主な就職先(ホームページ)
(3) 教職員	教職員数(ホームページ)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等の取り組み支援(ホームページ)
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況(ホームページ) 課外活動(ホームページ)
(6) 学生の生活支援	学生相談室・就職相談室の設置(ホームページ)
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い(ホームページ) 活用できる経済的支援措置の内容(ホームページ)
(8) 学校の財務	事業の概要、財産目録、資金収支計算書、事業活動収支計算書、 貸借対照表(ホームページ)
(9) 学校評価	自己点検評価報告書(ホームページ) 学校関係者評価報告書(ホームページ)
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL:https://www.osaka-doubutsu.ac.jp

授業科目等の概要

(動物管理専門課程動物管理学科) 令和4年度																
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
必修	選択必修	自由選択														
1	○		ビジネスマナー	社会人として必要なビジネスマナーについて学ぶ。学生としての意識・行動を顧み、社会人としての自覚や責任感を持つ。基本的なビジネスマナーを理解し組織の一員として働く留意点を学び、仕事を行う上で必要な職場における気配り・心配り・気遣いのできる社会人を目指す。	1前	60	2	○			○		○	○		
2	○		就職ゼミナール	社会人として必要とされる基本的なものの見方や考え方・行動の仕方について理解を深め、礼儀・ビジネスマナーの修得を目標とする。講座では、面接選考の仕組みを理解し、グループディスカッション、集団面接、個別面接、最終面接の面接ポイントを理解する。また自分の過去を体系的に整理し、自己分析を行いエントリーシートの作成や履歴書の作成に備える。本講座は、本学教員による演習と併せて、人事採用状況について精通している外部教員(各業界を代表する企業の人事担当者)の講話により構成される。	2前	60	2	○			○		○			
3	○		総合講座Ⅰ	社会人として必要な一般教養を学び、簡単な計算、または会話に必要な漢字の読み書きをできるように基礎学力を身に付ける。非言語分野を中心に繰り返し演習を行い「解法」を身に付ける。	1前	30	1	○			○		○	○		
4	○		総合講座Ⅱ	社会人として必要な一般教養を学び、簡単な計算、または会話に必要な漢字の読み書きをできるように基礎学力を身に付ける。基礎講座の後、応用問題に取り組みより正確かつ迅速に演習ができるようにする。	1後	30	1	○			○		○	○		
5	○		コンピュータ演習Ⅰ	パソコンの基本的な機器構成を学ぶとともに、Wordを中心として、Excel、PowerPoint等の操作方法や基本的な機能について学ぶ。また、WWW、E-Mail等を用いたインターネット上での情報交換・情報発信・情報収集の方法についても学ぶ。	1後	60	2	○			○		○	○		
6	○		コンピュータ演習Ⅱ	パソコンの基本的な機器構成を学ぶとともに、Excelを中心としてPowerPoint等の操作方法や基本的な機能について学ぶ。また、WWW、E-Mail等を用いたインターネット上での情報交換・情報発信・情報収集の方法についても学ぶ。	2後	60	2	○			○		○	○		
7	○		卒業研究	就職先の業界研究など各自の定めたテーマに沿って卒業研究の成果として提出する論文を作成する。卒業論文を完成させることを通じて、将来、テーマに精通する者として、そして一社会人として自ら考え、行動する能力を養う。	2後	150	5	○			○		○	○		
8	○		グルーミング実習Ⅰ	グルーミングの目的を理解した上で正しい道具の扱い方を実践することで、用具・用品の適切な使用方法や手入れの方法、生体の健康チェックやグルーミングの基礎となるベーシックを中心に行う。この実習では、実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、実体験に沿って怪我のリスクなども考慮して実施し、グルーミング基礎技術を修得することを目標とする。	1前	90	3			○	○			○	○	
9	○		グルーミング実習Ⅱ	グルーミングの基礎知識を実習に生かし、基本的な技術を身に付け迅速かつ丁寧に作業を行い、ペーシングを完了できるような実習を行う。また、犬体モデルを使用し、ケネルカットについてカット方法を身に付ける。この実習では、実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、実体験に沿って怪我のリスクなども考慮して実施し、グルーミング技術を有した職業人を育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。	1後	90	3			○	○			○	○	
10	○		グルーミング実習Ⅲ	ブードルのカットとして、ケネル(ラム)カットを主に、一人でベーシックからクリッピング、カットまで行えるように実習を行う。この実習では、実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、トリミング技術の目安となるケネルカットを実体験に沿って怪我のリスクなども考慮して実施し、より高いグルーミング技術を有した職業人を育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。	2前	90	3			○	○			○	○	
11	○		グルーミング実習Ⅳ	ケネルカット以外のカット方法を学び、実践することで、一定の犬種にこだわらずにグルーミング対応できる人材を目指す。この実習では、実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、人気犬種のグルーミング技法を実体験に沿って行う内容とし、高度なグルーミング技術を有した職業人を育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。	2後	30	1			○	○			○	○	
12	○		グルーミング論Ⅰ	グルーミング実習を行う際に使用する用具・用品の適切な使用方法・手入れの方法や生体管理の基礎について講義、演習を行う。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、正しい道具の扱いや生体の扱いを実習に生かすことでグルーミング技術向上を図る。	1前	30	1	○			○			○	○	
13	○		グルーミング論Ⅱ	グルーミング時に使用する用具・用品の適切な使用方法・手入れの方法や生体管理の知識を用いて、カットの基本技術を学ぶためトイブードルのケネル(ラム)クリップ技法を学ぶ。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、正しい知識のもと、実習に生かすことでグルーミング技術向上を図る。	1後	30	1	○			○			○	○	
14	○		グルーミング論Ⅲ	グルーミングの目的と必要性を認識し、小型犬や大型犬を問わず多種多様な犬種の特徴を学ぶとともに、トリミング技術の知見を広げる。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、正しい知識のもと、実習に生かすことでグルーミング技術向上を図る。	2前	30	1	○			○			○	○	
15	○		犬の行動心理学Ⅰ	犬の生態や習慣、行動特徴をよく理解することで「しつけ」が人間社会で犬と生活するうえで欠かせないものであることを理解する。また、純粋犬種を守って後世に伝えていくという目的も有しているドッグショーにおいて、ハンドラーの役割が重要であり、犬の基本的な扱い方としてハンドリング技術を身につける。	1前	30	1				○				○	○
16	○		犬の行動心理学Ⅱ	犬の行動特性を学ぶうえで、様々な犬種を扱いながら犬の行動や状態、性格分析を行う。また、各犬に応じた接し方を学ぶことで、人間と犬との関係性(コミュニケーション)の築き方を学ぶ。	1後	30	1				○				○	○
17	○		犬の行動心理学Ⅲ	応用種として動物行動学や学習理論に基づき各犬の行動・性格分析を行い、適切な接し方を実践したうえで、効果的にトレーニング(犬の行動を引き出す技術)が行われているかを学ぶ。	2前	30	1				○				○	○
18	○		犬の行動心理学Ⅳ	多くの犬種の特長と様々な問題行動を理解し、その対処法からトレーニング方法を考え実施する。また、仔犬を含めた犬に対するケアと管理の方法を理解し、第三者にもアドバイスできる人材とされるよう技術を高める。また、ドッグスポーツとしてアジリティ競技を学ぶ。	2後	30	1				○				○	○
19	○		インターンシップ	生涯職業計画の指針として、職業選択、適性を見極めを目的として職場体験を行う。インターンシップ先は、原則として学生自身が希望する職業分野の企業にて行う。内容は、飼育・販売・接客・サービス等幅広い分野より選択できる。	1後	45	1				○	○	○	○	○	○

20	○	グルーミング研究Ⅰ	グルーミング道具を正しく使用し、ベーシックの基礎技術を高め、さらに迅速かつ丁寧なグルーミングができる技術の修得を目標とする。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、ペットサロンで必要となる知識・技術を効率良く発揮する方法を実体験に基づき学ぶことでトリマーとしての職業人を目標とする。	1 前	90	3		○	○			○	○
21	○	グルーミング研究Ⅱ	ブードルを主とした生体実習により、様々なカットの基礎技術を学び、迅速かつ丁寧なトリミングができる技術の修得を目指すとともにグルーミング技術の資格取得を目標とする。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、ペットサロンで必要となる飼い主様との接し方やカットのオーダー、カルテ作成などを体験に基づき学ぶことでトリマーとしての職業人を育成し、社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。	1 後	90	3		○	○			○	○
22	○	グルーミング研究Ⅲ	小型犬や大型犬、様々な犬種の特性に応じたグルーミングの知識と技術を学ぶとともに、時間を短縮して犬に負担を掛けないトリミング技法を身に付けることを目標とする。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、スピードトリミング技術をより実践的に行うことで、高度なグルーミング技術を有したトリマーを育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。	2 前	90	3		○	○			○	○
23	○	グルーミング研究Ⅳ	トリマーとして必要となる接客技術やお客様（お預かり犬）の情報管理、カットに必要なオーダーや時間を短縮して犬に負担を掛けないトリミング技法や、即戦力となりうる応用力を身に付けることを目標とする。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、ペットサロンで実践されているトリミング技術を行うことで、より高度なグルーミング技術を有したトリマーを育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。	2 後	30	1		○	○			○	○
24	○	基礎獣医学Ⅰ	動物の体の組織や器官の仕組みを理解できるようにする。また、動物を取り巻く環境要因や疾病についても学ぶ。身近な動物である犬のからだ、骨格、病気について主に学び、日常の健康管理、食餌管理について学習する。	1 前	30	1	○		○			○	○
25	○	基礎獣医学Ⅱ	動物の体の組織や器官の仕組みを理解し、動物の状態確認や応急処置に対応できるようにする。また、動物を取り囲む環境要因や主な感染症と予防についても学習する。	1 後	30	1	○		○			○	○
26	○	基礎獣医学Ⅲ	感染症の中でも人に感染するズーノーシスについて学習する。感染経路や症状を理解し、予防できるよう学ぶ。また、主となる家庭動物である犬や猫の繁殖生理や解剖生理、遺伝について学ぶ。	2 前	30	1	○		○			○	○
27	○	基礎獣医学Ⅳ	幼齢動物・高齢動物の飼育管理を理解するとともに、哺乳類に加え、鳥類・爬虫類の体の仕組みと特性を学び幅広い動物に対応できるようにする。さらに、産業動物、実験動物などについても理解し、課題や関連法規について学習する。	2 後	30	1	○		○			○	○
28	○	動物学	用途別に犬種を分類しその特徴や性格について研究する。併せて、猫の品種についても学習し、その性格、飼育のポイントについて学習する。	1 前	30	1	○		○			○	
29	○	ペットシットング実習Ⅰ	動物が身体的、精神的に健康に過ごせるよう、ペットシットングを通じて動物と飼養施設の管理について学ぶ。動物を観察し、給餌、給水を適切に行うことで、動物の健康状態の把握と維持に努める。そして、飼養施設の清掃と消毒、廃棄物の処理を適切に行うことで衛生管理を行い、温度及び湿度管理をすることで動物が快適に生活できる環境づくりを身に付ける。さらに円滑にペットシットングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。ペットシットングを通じて動物愛護の精神を涵養し、動物の取扱い、動物の福祉について学ぶ。	1 前	45	1		○	○			○	○
30	○	ペットシットング実習Ⅱ	動物が身体的、精神的に健康に過ごせるよう、ペットシットングを通じて動物と飼養施設の管理について学ぶ。動物を観察し、給餌、給水を適切に行うことで、動物の健康状態の把握と維持に努める。また、動物の健康時と異常時の違いを認識し、異常が見受けられた場合の対応を身に付ける。飼養施設の清掃と消毒、廃棄物の処理を適切に行うことで衛生管理を行い、温度及び湿度管理をすることで動物が快適に生活できる環境づくりを身に付ける。さらに円滑にペットシットングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。	1 後	45	1		○	○			○	○
31	○	ペットシットング実習Ⅲ	動物が身体的、精神的に健康に過ごせるよう、ペットシットングを通じて動物と飼養施設の管理について学ぶ。動物を観察し、給餌、給水を適切に行うことで、動物の健康状態の把握と維持に努める。また、動物の健康時と異常時の違いを認識し、異常が見受けられた場合の対応を身に付ける。飼養施設の清掃と消毒、廃棄物の処理を適切に行うことで衛生管理を行い、温度及び湿度を管理し、動物が快適に生活できる環境づくりを身に付ける。さらに円滑にペットシットングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。	2 前	45	1		○	○			○	○
32	○	ペットシットング実習Ⅳ	動物の飼養施設の衛生管理、温度及び湿度の管理、給餌と給水を適切に行う知識と技術を学校犬へのペットシットングを通じて身に付ける。さらに円滑にペットシットングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。また、管理、指導役としてペットシットング実施者へのアドバイス、作業状態をチェックできるように、飼養施設の管理を総合的に把握する能力を身に付ける。	2 後	45	1		○	○			○	○
33	○	動物関係法令	人と動物とのかわりに関する基本法「動物の愛護及び管理に関する法律」等について正しい知識を学ぶ。日本においては動物に関する法律として約20種類ほどのものがあり身近な伴侶（愛玩）動物（飼養動物）として接するもの、自然の中に生息している野生動物として接するものに大別できる。法律に則り、適切に動物を取り扱うことのできる人材を育成する。	1 後	60	2		○	○			○	○
34	○	家庭動物管理学	ペット販売者は、命あるペットを販売する場合に、飼い主に対し社会的責任を果たすために必要なことを十分説明する責任がある。ペット業界に携わる者として必要な動物愛護管理法に関する知識を身に付ける必要がある。また、トラブルを予防するための基礎知識やアフターフォローの方法も学習し、お客様に対しての接客マナーを合わせて学びます。更に犬と猫を中心とした病氣、繁殖、フード、しつけなども学習する。	1 後	60	2	○		○			○	○
35	○	接客マナー	サービス業務に対する心構え、対人心理の理解、応対の技術、話し方、態度・振舞いなど接客技術を養う。身だしなみ、話し方や経済用語、社会常識、時事用語などの知識を身に付けた上で、実際の事例を基に確かな対処ができる能力を習得する。実務技能においては、問題処理、環境整備、金品管理、金品搬送、社交業務の5分野について学ぶ。	2 前	60	2	○		○				
36	○	しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅰ	人と犬の関係を歴史から理解したうえで、人と犬の関係をつなぐ用具やトレーニングの種類を学び、様々な犬とコミュニケーションが図れるよう実践する。その際、人間社会で犬と生活する上で必要となる「しつけ」は何かを実践的に学び、「停座」「伏臥」「居座」などの「オビディエンス」の基本について学ぶ。	1 前	90	3		○	○			○	○
37	○	しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅱ	しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅰを継続し、「しつけ」の基本となる「停座」「伏臥」「居座」「招呼」「脚側前進」などの「オビディエンス」技術を身につけ実践を行う。また、実践する際に使用する用具についても適切な使用方法やタイミングであるか実践の中で学ぶ。	1 後	90	3		○	○			○	○
38	○	しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅲ	ドッグトレーナーとして様々な犬を分析、対応するだけでなく、ドッグスポーツである「アジリティ」について学習する。また、「アジリティ」に必要な訓練だけでなく、ハンドラーの動きや「コマンド」を学び、実践を行う。	2 前	90	3		○	○			○	○

39	○	しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅳ	しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅲを継続し、オビディエンス訓練やアジリティ訓練の技術をさらに向上させる。	2 後	30	1		○	○					○	○
40	○	ペットビジネス演習Ⅰ	ペット産業、特にペットショップに従事する人材として、ペットの適正飼養の確保と推進に貢献するとともに顧客に適切なサービスを提供できる人材育成を目標とする。 飼い主がペットと長く幸せに暮らすために、ペットにとって必要な生活環境を飼い主にとって不都合でない形で提供する必要がある。この科目では実務経験のある教員が経験した実体験やペット関連イベントに基づく内容とし、ペットの選び方からお手入れ方法、しつけや健康管理、獣医療等の知識や技術を学ぶ。	1 前	60	2		○	○					○	○
41	○	ペットビジネス演習Ⅱ	ペット産業、特にペットショップ従事者として、ペットフードに関わる知識やペット共生について正しい知識を身に付け、顧客に適切なサービスを提供できる人材育成を目標とする。 この科目では実務経験のある教員が経験した実体験やペット関連イベントに基づく内容とし、栄養学を中心にペットが健康な生活を送るために欠かせないペットフードの基本的な知識やペットとの共生について学ぶ。	1 後	60	2		○	○					○	○
42	○	ペットビジネス演習Ⅲ	ペット産業は多岐にわたり人との生活に影響している。ペットに関わる様々な分野について知識を身に付け、顧客に適切なサービスを提供できる人材育成を目標とする。 この科目では、実務経験のある教員が経験した実体験やペット関連イベントに基づく内容とし、ペットとのコミュニケーションやより良いペットとの関わり方（旅行・撮影・イベントなど）について学ぶ。また、ペット関連法規をはじめ、ペットに関わる保険について学ぶ。	2 前	60	2		○	○					○	○
43	○	ペットビジネス演習Ⅳ	ペット共生には犬・猫の高齢化に伴う様々な知識や技術が必要とされる。ペット業界全体を理解し、接客場面において相談やアドバイスを行うとともに、ペットの適正な発育と健康維持・増進に寄与できる人材を育成する。 この科目では、実務経験のある教員が経験した実体験やペット関連イベントに基づく内容とし、犬・猫の老化ポイント、食餌・排泄の介助、供養などを学習する。 また、ペットが健康で安全な生活を送る上で必要なペットフードに関わる法律や製造・保管などについても学ぶ。	2 後	15	1		○	○					○	○
44	○	ホリスティックケアⅠ	人間と同様に人と一緒に暮らすペットも「心身ともに健康」な状態を目指すことが大切である。人と動物との関わり方を学ぶとともに動物へのケアを学ぶ。また、特別介護施設等で動物介在活動を実施し、参加者とのコミュニケーションスキルを身に付けることも目標とする。 ここでは実務経験のある教員が経験した実体験や動物介在活動に基づく内容で、ペットの癒しとして自然治癒力を高めるアロマセラピーやマッサージ、ホリスティック療法を通じて身体全体のケアを学ぶ。	1 前	30	1		○	○	○	○	○	○	○	○
45	○	ホリスティックケアⅡ	人間と同様に人と一緒に暮らすペットも「心身ともに健康」な状態を目指すことが大切である。人と動物との関わり方を学ぶとともに動物へのケアを学ぶ。また、特別介護施設等で動物介在活動を実施し、参加者とのコミュニケーションスキルを身に付けることも目標とする。	1 後	30	1		○	○	○	○	○	○	○	○
46	○	ホリスティックケアⅢ	人間と同様に人と一緒に暮らすペットも「心身ともに健康」な状態を目指すことが大切である。ペットのストレス、成人病、高齢化や肥満といった人間社会と同じような社会現象も現れてきていることを理解し、さらなる知識、技術の向上を目標とする。 ここでは実務経験のある教員が経験した実体験や動物介在活動に基づく内容で、アロマセラピーの上級資格取得、東洋医学に由来する経絡とツボの理論を柱としたペットマッサージの習得、グループ討論を行うことによりコミュニケーションスキルを高め合い、個々の思考能力を高める。	2 前	30	1		○	○	○	○	○	○	○	○
47	○	ホリスティックケアⅣ	飼い主の心に寄り添い、傾聴し、アドバイスを行う手法の修得と動物介在活動における社会貢献活動について取り組める人材を目標とする。 ここでは実務経験のある教員が経験した実体験や動物介在活動に基づく内容で、ホリスティックケアの集大成として、アロマセラピー、マッサージ技法、犬猫の身体・ツボおよびリンパマッサージ、犬猫の栄養学と手作り食、犬猫のストレス学、犬猫に負担の少ないグルーミングなどを総合的に学ぶ。	2 後	15	1		○	○	○	○	○	○	○	○
48	○	動物形態機能学	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化について学ぶ基盤を確立する。	1 前	120	4		○						○	○
49	○	動物繁殖学	繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する。	2 後	30	1		○						○	○
50	○	動物病理学	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。	2 前	30	1		○						○	○
51	○	動物薬理学	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について学び、動物の疾病の診断や治療がどのように用いられるかを理解する。	2 前	60	2		○						○	○
52	○	動物感染症学	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を修得する。感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。	2 前	90	3		○						○	○
53	○	動物看護学概論	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。	1 前	60	2		○						○	○
54	○	動物医療関連法規	動物や獣医療に関連する様々な法規について学び、社会における動物看護の役割を理解する。	1 前	30	1		○						○	○
55	○	公衆衛生学	環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。	2 前	60	2		○						○	○
56	○	人間動物関係学	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的および社会的側面から理解する。	1 前	30	1		○						○	○
57	○	動物福祉・倫理	動物愛護や動物福祉（アニマルウェルフェア）、およびその基礎となる生命倫理の考え方について学ぶ。	1 前	30	1		○						○	○
58	○	動物行動学	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。	1 前	30	1		○						○	○
59	○	伴侶動物学	伴侶動物の歴史や品種、飼育管理法、およびエキゾチック動物の生態について学ぶ。	1 後	60	2		○						○	○
60	○	産業動物学	産業動物の歴史や品種、飼育管理法、および畜産業など社会との関わりについて学ぶ。	1 後	45	1		○						○	○
61	○	実験動物学	実験動物の歴史や品種、飼育管理法、動物実験との関わりについて学ぶ。	1 後	15	1		○						○	○
62	○	野生動物学	日本の野生動物の種類と保全、動物園等の展示動物について学ぶ。	1 後	30	1		○						○	○
63	○	動物内科看護学	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する。	2 前	30	1		○						○	○

64	○	動物外科看護学	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。	2 後	60	2	○		○		○	○
65	○	動物臨床看護学総論	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個性性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。	2 前	30	1	○		○		○	○
66	○	動物臨床看護学各論	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を修得する。	1 後	120	4	○		○		○	○
67	○	動物臨床栄養学	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。	2 後	60	2	○		○		○	○
68	○	動物臨床検査学	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を習得する。	1 後	60	2	○		○		○	○
69	○	動物医療コミュニケーション	日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について学ぶ。	1 前	30	1	○		○		○	○
70	○	動物形態機能学実習	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。	1 前	45	1		○	○		○	○
71	○	動物内科看護学実習	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2 前	90	2		○	○		○	○
72	○	動物臨床検査学実習Ⅰ	検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。	1 後	45	1		○	○		○	○
73	○	動物臨床検査学実習Ⅱ	検体検査および生体検査の手技に応用力を付けて正確性、迅速性を身につける。また、検体の保存法、取扱いと検査後の処理を正しく理解する。	2 後	45	1		○	○		○	○
74	○	動物外科看護学実習	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2 後	90	2		○	○		○	○
75	○	動物臨床看護学実習	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	1 後	45	1		○	○		○	○
76	○	動物看護総合実習Ⅰ	動物病院で体験・実習することで、診療現場での臨床経験からより実践的な看護と専門知識及び倫理観を習得する。修学した知識と技術を実際の動物医療現場で生かすことを目的とする。	1 後	90	2		○	○		○	○
77	○	動物看護総合実習Ⅱ	動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。また、牧場や動物園、水族館など様々な職場でのインターンシップを通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。	2 前	90	2		○	○		○	○
合計				77科目	4065単位時間(128単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：成績評価において合格した科目の授業時間数の合計が1,720単位時間以上になること。なお、教育課程に定められた必修科目についてはすべて取得することを要する。 履修方法：コース選択により履修科目が決定する。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。
- 3 講義・演習は30時数/単位とする。(実験動物学については、対面授業15時数と自己学習15時数で1単位とする。)
- 4 選択必修についてはこの中から3科目以上履修すること。
- 5 次に定める授業科目の履修等は、本校各課程の修了に必要な総授業時間数の2分の1を超えない範囲で、当該課程における授業科目の履修とみなす。

科目区分	履修する専門学校	必修・選択の別	履修科目	本校において履修したとみなす授業時数(単位数)
一般科目	大阪法律公務員専門学校 文化教養専門課程 行政学科(1年制)	選択必修	社会科学概論	40時間(2単位)
		選択必修	社会科学演習	60時間(3単位)
		選択必修	人文科学概論	40時間(2単位)
		選択必修	人文科学演習	40時間(2単位)
		選択必修	自然科学概論	40時間(2単位)
		選択必修	自然科学演習	40時間(2単位)
		選択必修	時事研究	40時間(2単位)
専門科目	大阪法律公務員専門学校 文化教養専門課程 行政学科(1年制)	選択必修	論作文	40時間(2単位)
		選択必修	判断推理	40時間(2単位)
		選択必修	判断推理演習Ⅰ	100時間(5単位)
		選択必修	数的推理	60時間(3単位)
		選択必修	数的推理演習Ⅰ	100時間(5単位)
		選択必修	資料分析	40時間(2単位)
		選択必修	文章研究	40時間(2単位)
		選択必修	適性演習	40時間(2単位)
	必修	トレーニング演習	40時間(2単位)	
	必修	就職セミナーⅠ	20時間(1単位)	
	選択必修	官公庁研究	20時間(1単位)	

1. 講義・演習は20時数/単位とする。